

平成 28 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立
領域代表者	酒井 啓子（千葉大学・法政経学部・教授）
研究期間	平成 28 年度～平成 32 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、地域を地域間の関係性やグローバルな変動の中に位置付け、学際的な研究として再編することを目指す提案である。同様の課題を掲げた近年の複数のプロジェクトの成果と経験を踏まえて、関係性・学際性の深化に工夫を凝らしてチャレンジしようとするものであり、大きな発展が期待される。また、研究計画は中東を中心に組み立てられており、現代世界の危機的状況を考える上でも意義のある妥当な計画である。</p> <p>グローバル化が注目されるようになってすでに数十年が経過したが、その重層的な関係（国家間、国家以外の様々なレベルのグローバル化）や、階層や社会・文化的要素を含めた多様な要因の関係性についての理論的研究はまだ十分に展開されていない。本研究領域は、その難しさを十分に認識した上で、着実な方法で発展を図ろうとするものであり、現地調査を重視してきた日本の地域研究をさらに発展させることが期待される。</p> <p>研究組織については、領域代表者及び中核メンバーともに、研究業績や国際的な研究ネットワーク形成における実績も十分であり、横断的研究会や国際シンポジウムの開催による学際性・関係性の議論の場の確保など、領域運営においても工夫がなされ、一定の成果が期待できる。</p> <p>一方で、領域研究を推進する上では、理論的な枠組みの提示や、それを育てる仕組みについての更なる検討が求められる。また、各計画研究の成果を統合した領域全体の成果について、仮説を立てて具体化を図る必要がある。</p>